

○「失敗 OK・チャレンジできる学校」、「個人・多様性が尊重された学校」へのニーズは、先生方も本当にそう感じているのだろうかと思う。学校の先生方ができていると思わなければ生徒達も思わないと思うので、どうすればそういった雰囲気づくり・教育にチャレンジできるかを、京丹後市全体で考えていくことが必要。

(2) 魅力ある府立高校づくり推進基本計画(仮称)について

- 今後どのような形でスクールミッション、カリキュラムの在り方等を検討していくのか。京丹後市の方でこれだけいろいろ議論してやってきた中で、府の協議会に市が入る、または市の方で、府の方と協議しながら、市内の府立高校の特色化、魅力化に向けた在り方というのを今後協議して進めていくのか。できれば、市、高校、そして府で一緒に検討できるような体制や配慮をしてほしい。
- この検討会における内容を重く受けとめていただいて、今後の府立高校の在り方に反映させていただきたい。
- 府に京丹後市の思いが届いてないと感じたので、市がもっとアピールして実現させてほしい。
- 学校施設等の整備について、全国からの生徒募集や寮の整備の検討ができるように、職業学科設置校に限らず新しい普通科も含めて検討してはどうか。
- 例えば数学の授業で、知識を享受してもらうタイプの授業であれば、遠隔による知識享受も十分意味があると思う。授業を受けるのにわざわざ1時間以上かけて学校に行かずとも、どの地域にいても、近くの学舎に行けば子どものレベルに合った授業を遠隔である程度受けられる、といったような取組も京都府でご検討いただきたい。

(3) 財源確保及び行政体制の在り方について

- 財源確保について、寄附者からの評価を受ければ、財源は得やすくなると思う。良い教育をして宣伝していけば、取組はうまくいっていくと思う。
- 行政体制の充実について、中高連携を進めるためには府教委割愛職員は小学校・中学校籍の職員だけでなく、高校籍も1名は必要だと思う。委員の皆さまの組織・団体から職員を京丹後市に出向していただくというのもよい。
- 行政体制について、京丹後市の中でも、もう少し学校教育課に人を配置できるように検討いただく必要がある。

(4) 遠隔教育特例校制度の申請状況について

- 遠隔システムの導入について、他の先進地域の事例等も参考にされながら、出来るだけ長く使えるシステムを導入してほしい。
- 現場としては凄くありがたい。専科外の教師が技術を兼任しながら授業をするという実態があり、負担が大変大きい。専門的な指導を生徒たちにしていただけるのは

- 有難いし、学校の先生たちの教育が広がっていくと思う。
○授業が生徒にうまく伝わるようなシステムをつくってほしい。

(5)その他

- 地域連携の体制整備については、コーディネーターの存在が大事になるので、しっかりと取り組んでほしい。
- 地域連携のプラットフォームについて、探究的な学びを行うときに、いかに生徒の支援に適切な人・企業につなげられるか、その知見をシェアできるかが、プラットフォームのコーディネーターの能力として非常に重要。スケジュールや作業量など計画立てて進めてほしい。